

決算補足説明資料

2023年度 第2四半期 業績概要

注意事項

- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2023年3月1日～2023年8月31日)

© 2023 YASKAWA Electric Corporation

本日はお忙しい中、当社 決算オンライン説明会にご参加いただきありがとうございます。

2023年度 第2四半期の業績概要についてご説明いたします。

4ページにお進みください。

1. 2023年度 上期 連結業績

- 2023年度 上期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 所在地別売上収益, 構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2023年度 上期の取り組み

2. 2023年度 通期 連結業績見通し

- 2023年度 通期 見通し
- 営業利益増減要因分析
- 2023年度 下期の取り組み
- 株主還元 (配当金推移)

3. 参考資料

- 設備投資・研究開発費,為替レート,感応度
- B/S構造の推移
- 売上収益・営業利益推移
- 四半期売上収益推移
- 四半期受注推移

セグメント別事業概要

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ ACサーボモータ、コントローラ
- ・ リニアサーボ
- ・ インバータ
- ・ PMモータ

など



ロボット

【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
 - FPD搬送・ハンドリング用途向け
- ・ 半導体製造装置用ロボット
- ・ バイオメディカル用途向けロボット
- ・ 人協働ロボット

など



システムエンジニアリング

【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電機システム
- ・ 上下水道用電気計装システム
- ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ

など



その他

- ・ 物流サービス

など

1. 2023年度 上期 連結業績

- ・生産が正常化し、受注残の着実な消化によって増収
- ・価格転嫁による採算性の改善に加え、円安影響などにより増益

	2023年度 上期 実績	2022年度 上期 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上収益	2,890億円	2,635億円	+254億円	+9.7%
営業利益	331億円	313億円	+18億円	+5.8%
税引前利益	345億円	335億円	+11億円	+3.2%
<small>親会社の所有者に帰属する</small> 四半期利益	242億円	237億円	+5億円	+2.2%

当期の経営環境は、製造業全般における生産の高度化・自動化を目的とした設備投資が底堅く推移しました。

その一方で、半導体・電子部品向けの需要は低迷し、中国市場の回復鈍化によって設備投資が伸び悩むなど、グローバルに慎重な姿勢が強まりました。

このような中、当社グループの業績は、部品不足などのサプライチェーンの混乱により遅れていた生産が正常化し、受注残の着実な消化によって売上を拡大したことで増収となりました。

利益については、昨年度に一時的に発生した退職年金制度の変更や、遊休不動産の売却などに伴う“その他収益”が無くなった影響を受けましたが、高騰した原材料費などの価格転嫁による採算性の改善に加え、売上増加による利益増加や円安影響などによって増益となりました。

売上収益は 前年同期比 9.7%増の2,890億円、
営業利益は 5.8%増の331億円、
税引前利益は 3.2%増の345億円、
四半期利益は 2.2%増の242億円です。

それでは、次の5ページにお進みください。

2023年度 上期 実績 (セグメント別)

- ・ モーションコントロールはインバータ事業の生産正常化などにより増収増益
- ・ ロボットはEV関連や一般産業分野における底堅い需要を受け増収増益

(単位：億円)	2023年度 上期		2022年度 上期		前年 同期 比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
売上収益	2,890		2,635		+254	+9.7%
モーションコントロール	1,369		1,213		+156	+12.9%
ロボット	1,124		1,036		+88	+8.5%
システムエンジニアリング	269		246		+23	+9.3%
その他	128		140		▲12	▲8.7%
営業利益	331	11.4%	313	11.9%	+18	+5.8%
モーションコントロール	204	14.9%	158	13.0%	+46	+29.3%
ロボット	130	11.6%	109	10.5%	+21	+19.3%
システムエンジニアリング	12	4.4%	10	3.9%	+2	+22.0%
その他	0	0.1%	4	2.5%	▲3	▲97.6%
消去または全社	▲15	-	33	-	▲48	-

セグメント別の状況です。

モーションコントロールは、半導体・電子部品向けが伸び悩んだものの、生産の正常化によって販売が伸長したことから増収となりました。

利益面については、昨年度来高騰した原材料費の価格転嫁などによって採算性が改善し、増益となりました。

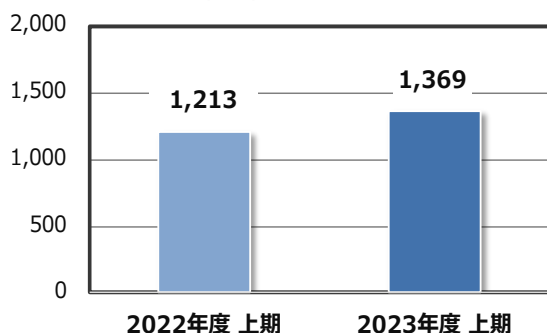
ロボットは、グローバルにEV関連の設備投資が継続したことに加え、欧米などの一般産業分野において人件費高騰・労働力不足を背景に、生産の高度化・自動化を目的とした投資が底堅く推移し、増収増益となりました。

続いて、各セグメントの詳細についてご説明いたします。

次の6ページにお進みください。

主要事業の概要 モーションコントロール

売上収益(億円)



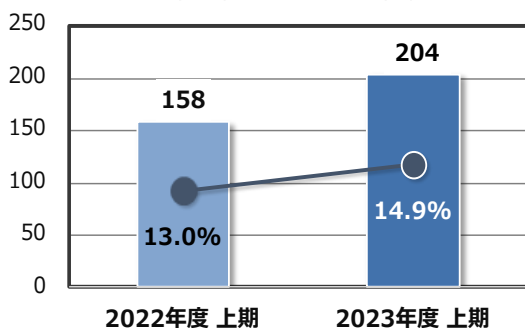
【売上収益】

- ACサーボは中国で太陽光パネル製造装置向けの販売が伸長した一方、日米韓で半導体・電子部品需要が低迷し減収
- インバータは生産の正常化で受注残の消化が進み、販売が伸長。米国のオイル・ガス関連や大型空調(HVAC)関連の需要が好調に推移するなど売上収益は大幅に増加

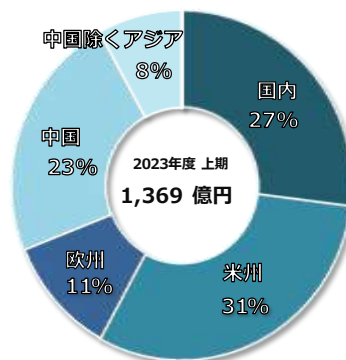
【営業利益】

- 昨年度来高騰した原材料費の価格転嫁などによって採算性が改善し増益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



モーションコントロールの状況です。
売上収益は、前年同期比12.9%増の1,369億円、
営業利益は29.3%増の204億円となりました。

なお、23年度上期におけるACサーボとインバータの売上収益の比率は、
ACサーボが52%、インバータが48%です。

ACサーボは、中国で太陽光パネル製造装置向けの販売が伸長した一方、
日米韓で半導体・電子部品需要が低迷し、減収となりました。

インバータは、生産の正常化で受注残の消化が進み、販売が伸長しました。
また、米国のオイル・ガス関連や大型空調(HVAC)関連の需要が好調に
推移したことから、売上収益は大幅に増加しました。

利益については、昨年度来高騰した原材料費の価格転嫁などによって
採算性が改善し、営業利益率は1.9ポイント増の14.9%となりました。

ご参考として、23年度上期の所在地別 売上収益 構成比の内訳についてお伝えします。

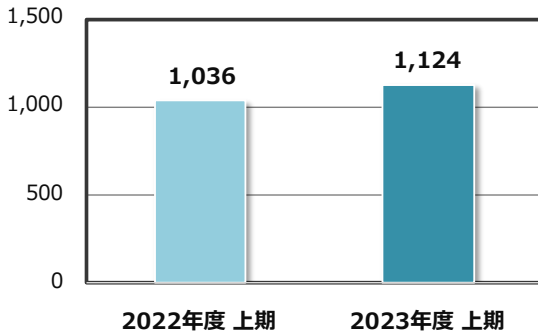
ACサーボは、
国内32%、米州20%、欧州12%、中国30%、中国除くアジア7%です。

インバータは、
国内21%、米州44%、欧州9%、中国16%、中国除くアジア10%です。

それでは、次の7ページにお進みください。

主要事業の概要 ロボット

売上収益(億円)



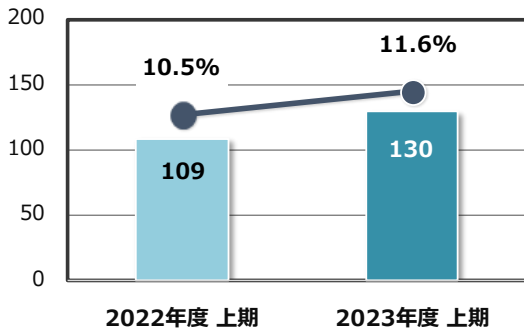
【売上収益】

- ・ グローバルにEV関連の設備投資が継続
- ・ 一般産業分野においても人件費高騰・労働力不足を背景に生産の高度化・自動化を目的とした投資が継続し売上増加

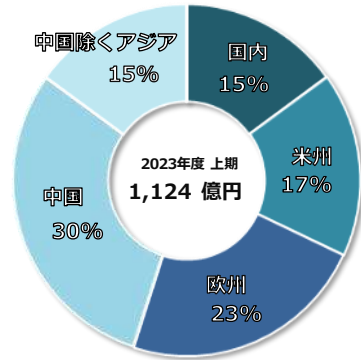
【営業利益】

- ・ i³-Mechatronicsソリューションによる高付加価値提案を行うとともに、部品の内製化や価格転嫁による採算性の改善を進めた結果、営業利益は増加

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



ロボットの状況です。

売上収益は、前年同期比8.5%増の1,124億円、
営業利益は、19.3%増の130億円となりました。

自動車市場においては、グローバルにEV化の設備投資が継続したことに加え、
欧米などの一般産業分野においても、人件費高騰・労働力不足を背景に
生産の高度化・自動化を目的とした投資が継続し、増収となりました。

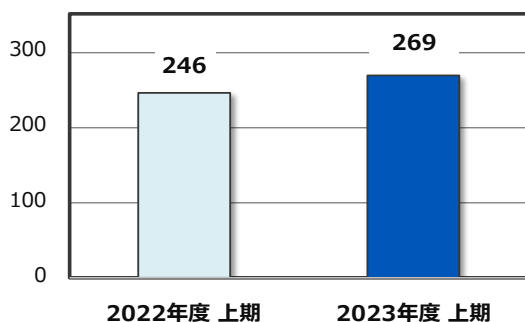
利益面については、i³-Mechatronicsソリューションによる
高付加価値提案を行うとともに、
部品の内製化、自動化による生産効率の改善、そして価格転嫁による採算性の改善を
進めた結果、増益となりました。

営業利益率は前年同期から1.1ポイント改善し、11.6%となりました。

それでは、次の8ページにお進みください。

主要事業の概要 システムエンジニアリング

売上収益(億円)



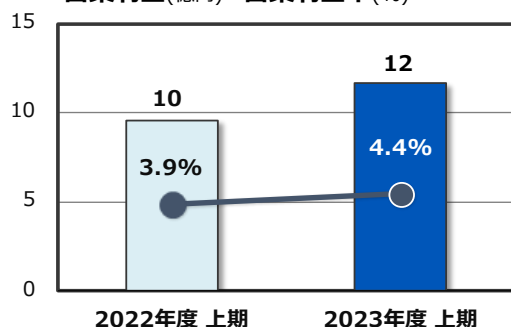
【売上収益】

- 国内の上下水道用電気システムや海外の港湾クレーン関連などの需要が堅調に推移し増収

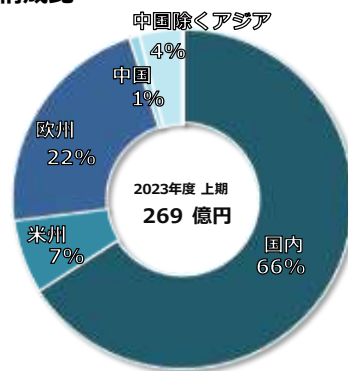
【営業利益】

- 売上増加による利益増加に加え、経費コントロールの徹底などにより増益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



システムエンジニアリングの状況です。

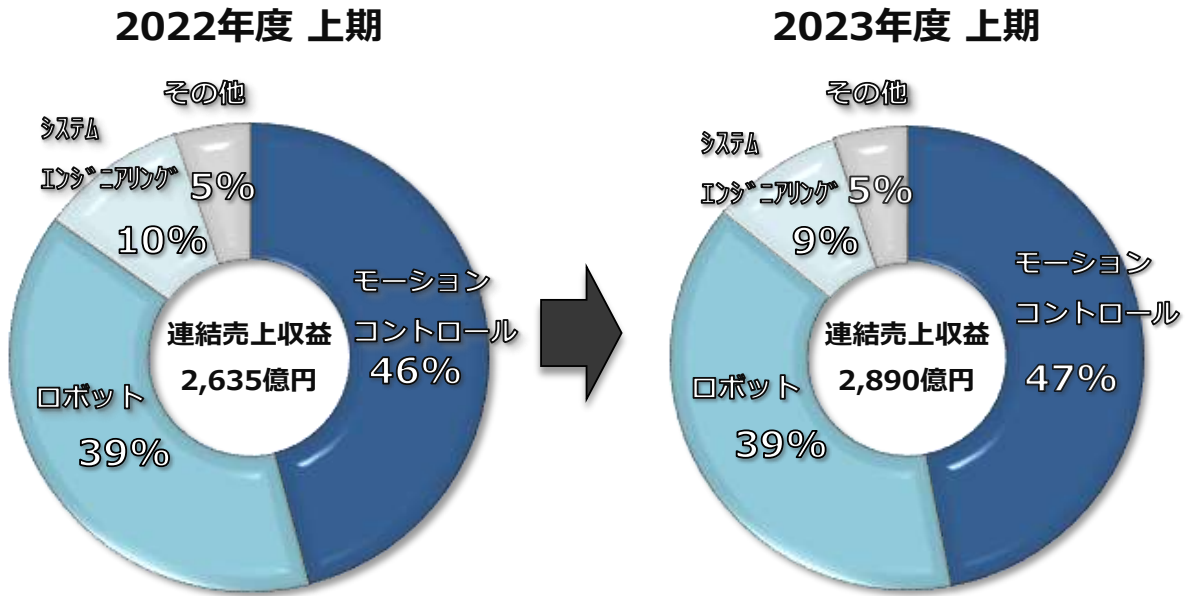
売上収益は、前年同期比9.3%増の269億円、
営業利益は、22.0%増の12億円となりました。

売上収益については、国内の上下水道用電気システムや、
海外の港湾クレーン関連などの需要が堅調に推移し、増収となりました。

利益面については、売上増加による利益増加に加え、
経費コントロールの徹底などにより増益となりました。

営業利益率は、前年同期から0.5ポイント改善し、
4.4%となっております。

それでは、次の9ページにお進みください。



事業セグメント別の売上収益 構成比は、
モーションコントロールが1ポイント増加し47%、
システムエンジニアリングが1ポイント減少し9%、
ロボットとその他は、前年同期から変更はありません。

それでは、次の10ページにお進みください。

所在地別売上収益

・ 欧米を中心に、すべての地域において前年同期比で増加

(単位：億円)	2023年度	2022年度	前年同期比	
	上期実績	上期実績	増減額	増減率
売上収益	2,890	2,635	+254	+9.7%
国内	818	777	+41	+5.3%
海外	2,072	1,859	+213	+11.5%
米州	636	526	+109	+20.8%
欧州	458	382	+76	+20.0%
中国	687	664	+23	+3.4%
中国除くアジア	292	287	+5	+1.7%

[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益です。

欧米を中心に、すべての地域において前年同期比で増収となりましたが、需要面においてはグローバルで設備投資に慎重な姿勢が強まりました。

地域別の状況ですが、

国内は、半導体市場の需要がメモリ価格の下落に伴う在庫調整継続の影響を受けましたが、生産の自動化・効率化などの設備投資は底堅く推移しました。

米州は、調整局面にある半導体市場の需要が低調に推移したものの、自動車やオイル・ガス関連などの設備投資や自動化投資が継続しました。

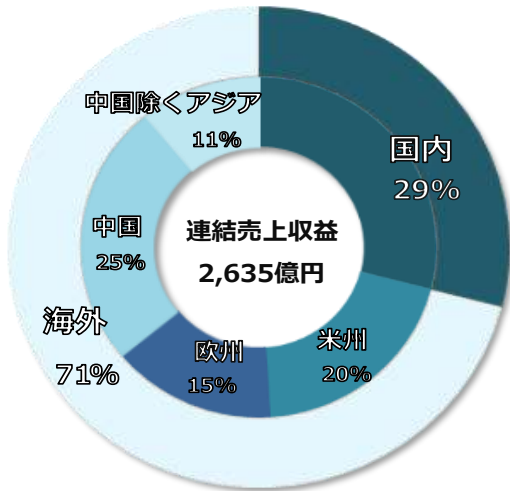
欧州は、景気後退の影響を受け需要は減速しましたが、EVなどの成長市場において設備投資が継続しました。

中国は、市場の回復鈍化により、製造業全般の需要は伸び悩みましたが、太陽光発電用パネルなどの成長市場において設備投資は継続しました。

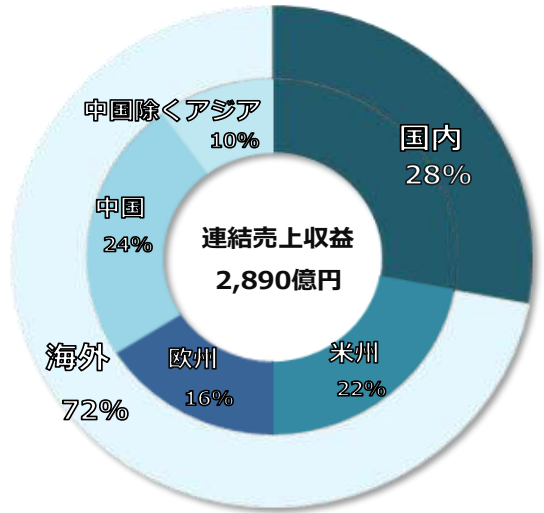
中国除くアジアについては、韓国・台湾などで半導体関連需要が落ち込んだ一方、アセアン各国やインドにおいてインフラ関連や一般産業分野などで新規設備投資が増加しました。

それでは次の11ページにお進みください。

2022年度 上期



2023年度 上期



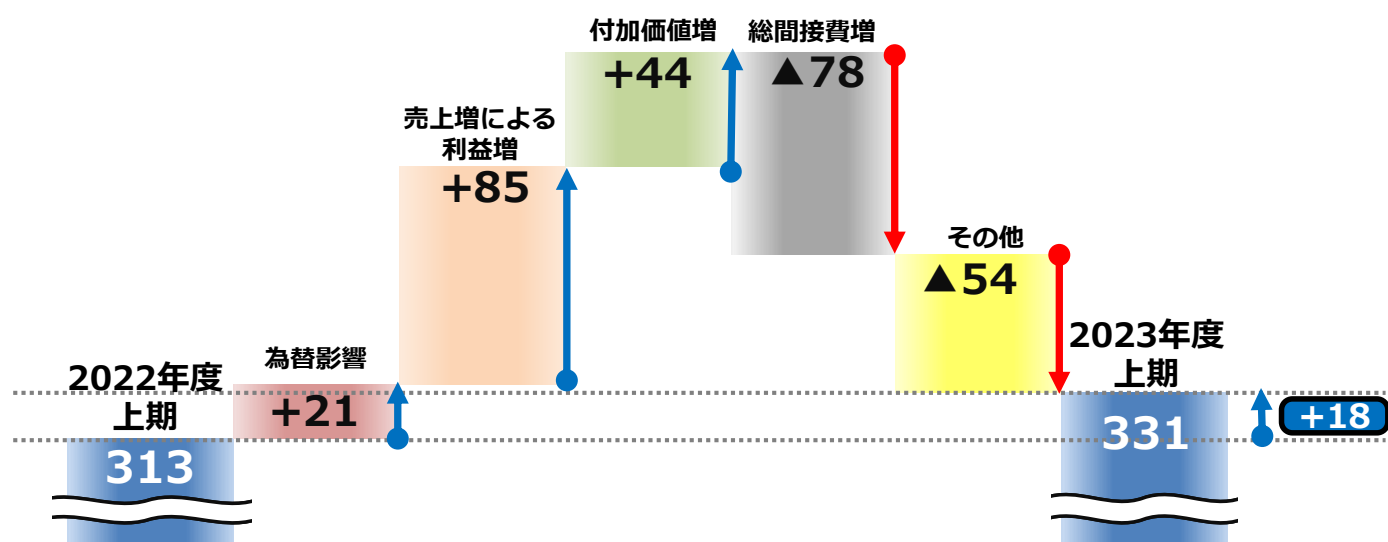
[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益 構成比は、海外が72%、国内が28%となりました。

海外の内訳として、中国と中国を除くアジアがそれぞれ1ポイント減少し、米州が2ポイント、欧州が1ポイント、増加しました。

それでは、次の12ページにお進みください。

営業利益増減要因分析 (2022年度 上期 → 2023年度 上期)



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+9	+57	+23	▲43	+0
ロボット	+13	+22	+21	▲35	+0
システムエンジニアリング	▲0	+7	▲1	▲3	▲0
その他	+0	▲1	+1	+2	▲53

営業利益の増減要因分析です。

23年度上期の営業利益は、前年度の313億円から18億円増加し、331億円となりました。

為替による影響は、プラス21億円、売上増による利益増加はモーションコントロールを中心にプラス85億円です。

付加価値の増加はプラス44億円。この内訳として、材料費の高騰影響がマイナス26億円、物流費の正常化影響がプラス15億円、価格転嫁の進展による効果がプラス40億円、新製品の切り替え効果 プラス4億円、となっています。

間接費の増加による影響はマイナス78億円。インフレ対応を含む労務費および活動費の増加が主な要因です。

最後の「その他」はマイナス54億円です。これは、前年度に一時的に発生した退職年金制度の変更や遊休不動産の売却などに伴うその他収益が無くなった影響によるものです。

それでは、次の13ページにお進みください。

▶ “i³-Mechatronics”のビジネスモデル確立

→ 開発力の強化

- ・ 新型自律ロボット「MOTOMAN NEXTシリーズ」の市場投入に向けた準備を加速

→ 生産力の強化

- ・ 内製化拡大を実現する無人稼働の国内ロボット機械加工工場の建設完了 (基幹鋳物部品の内製化)
- ・ 一貫生産体制の確立を目指し、
ロボット用サーボモータとロボットを生産する新工場の建設を計画 (本社地区, 25年稼働予定)

→ 販売力の強化

- ・ i³-Mechatronicsを軸に事業部横断的な活動を通じた高付加価値提案を実施 (中国・太陽光パネル製造装置関連)

▶ デジタル経営の推進

- ・ YDX-II^{*}の取組みとして、製品の品質情報をグローバルで共有し
不具合の未然防止を図る仕組みを構築

▶ サステナブルな社会/事業に寄与する経営基盤の強化

- ・ 欧米、中国拠点への経営理念教育展開によるグローバル従業員の理解深化
- ・ YASKAWAレポート2023での人的資本に関する開示情報の拡充 (2023年9月)

※YDX-II : YDXはYASKAWA Digital Transformationの略。YDX-Iで可視化した経営資源データを連携させ、
製品ライフサイクル全体を通じた改革を実行



YASKAWAレポート2023



23年度上期における取り組みです。

開発力の強化では、MOTOMAN NEXTの市場投入に向けた準備を進めました。新規事業チャネルの開拓に加え、お客さまの生産ラインにおける実機テストや自社製品の組み立て工程での実証などを行いました。

生産力の強化では、ロボット用の部品を内製する機械加工工場を建設しました。この工場は自動化を徹底し、ほぼ無人の稼働工場にします。この工場に加え、本社地区にサーボモータとロボットを一貫生産する新たな工場の建設も決定しました。こちらは25年度に稼働開始の予定です。

販売力の強化では、i³-Mechatronicsを軸とする高付加価値提案を強化しています。中国の太陽光パネル関連のお客さま案件の獲得など具体的な成果につなげました。

デジタル経営の推進では、YDX-IIの取組みの一環として、品質情報をグローバルで共有し、不具合を未然に防止する仕組みなどの構築を進めています。

経営基盤の強化では、安川グループ全体の求心力向上を図るために、欧米・中国拠点の従業員を対象に経営理念の教育プログラムを実施しました。

また、9月に公開したYASKAWAレポートにおいては、人材戦略の全体像を図解した上で、それぞれの重点項目について、目標と進捗、そして目標達成に向けた具体的な取り組みを説明するなど、人的資本を中心に情報の拡充を進めました。

それでは、15ページへお進みください。

2. 2023年度 通期 連結業績見通し

© 2023 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

・主要市場において需要が伸び悩んでいるものの、受注残の確実な消化や価格転嫁の促進などにより通期見通し(2023年4月7日公表)を据え置く

	2023年度 見通し	2022年度 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上収益	5,800億円	5,560億円	+240億円	+4.3%
営業利益	700億円	683億円	+17億円	+2.5%
税引前利益	727億円	711億円	+16億円	+2.2%
親会社株主に帰属する 当期利益	513億円	518億円	▲5億円	▲0.9%

2023年度 通期の業績見通しです。

主要市場において需要が伸び悩んでいるものの、受注残の確実な消化や価格転嫁の促進などにより、2023年4月7日に公表した見通しを据え置きます。

なお、23年度下期における想定為替レートを次の通り、円安方向に修正します。
ドルは130円から145円に、ユーロは140円から155円に、
人民元は19円から20円に、韓国ウォンは0.10円から0.11円に
それぞれ見直しました。

続いて、16ページにお進みください。

2023年度 通期 見通し (セグメント別)

・セグメント別の通期見通しについては、足元の需要動向を考慮し修正

	2023年度		2022年度		前年同期比		2023年度	
	見通し	利益率	実績	利益率	増減額	増減率	前回見通し※	利益率
売上収益 (単位: 億円)	5,800		5,560		+240	+4.3%	5,800	
モーションコントロール	2,710		2,521		+189	+7.5%	2,650	
ロボット	2,345		2,238		+107	+4.8%	2,450	
システムエンジニアリング	505		511		▲6	▲1.2%	470	
その他	240		289		▲49	▲16.9%	230	
営業利益	700	12.1%	683	12.3%	+17	+2.5%	700	12.1%
モーションコントロール	419	15.4%	362	14.4%	+57	+15.6%	390	14.7%
ロボット	301	12.8%	261	11.7%	+39	+15.0%	340	13.9%
システムエンジニアリング	18	3.6%	26	5.0%	▲8	▲30.1%	15	3.2%
その他	▲2	▲0.8%	18	6.2%	▲20	-	▲2	▲0.9%
消去または全社	▲35	-	16	-	▲51	-	▲43	-

※ 2023年4月7日 FY22 4Q決算発表時

セグメント別の通期見通しです。

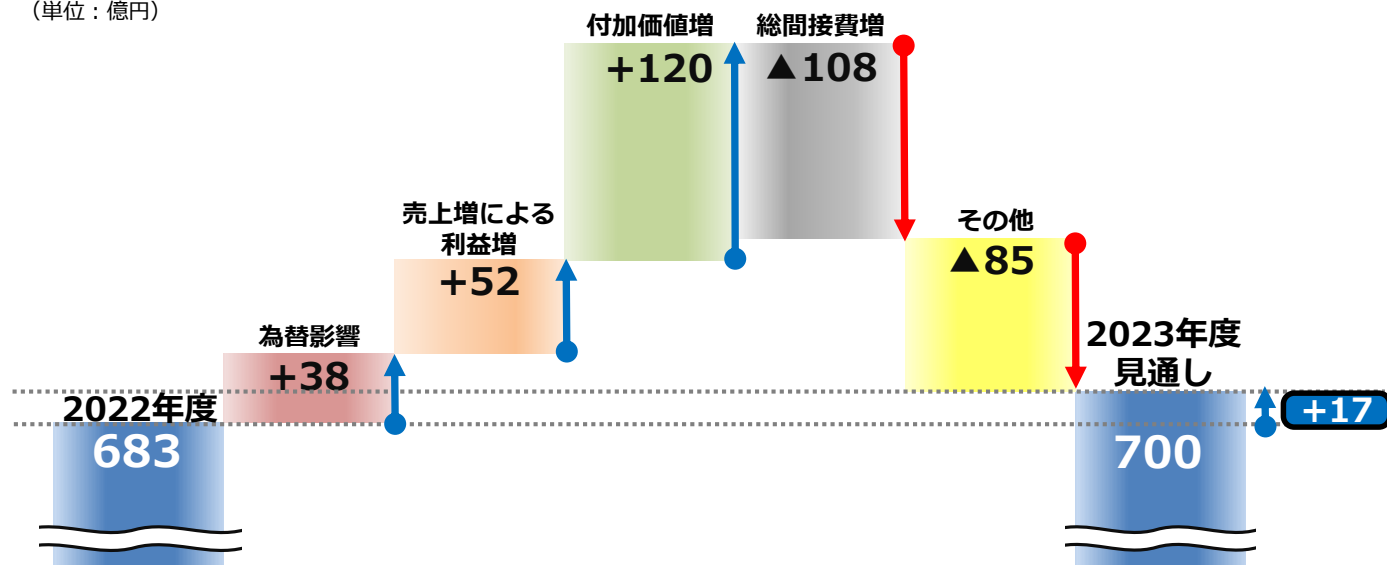
全社の見通しは据え置きましたが、セグメント別の見通しは足元の需要動向を考慮し、次の通り修正します。

モーションコントロールは、インバータの生産正常化を受け上方に、ロボットは、主に中国で景気先行きの不透明感が強まり下方に、売上収益・営業利益をそれぞれ修正します。

それでは、次の17ページにお進みください。

営業利益増減要因分析（2022年度 → 2023年度見通し）

（単位：億円）



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+16	+54	+57	▲54	▲17
ロボット	+22	+10	+60	▲52	▲0
システムエンジニアリング	+0	▲7	▲5	+6	▲1
その他	+0	▲5	+9	▲9	▲66

通期見通しにおける営業利益増減要因分析です。

2023年度の営業利益は、前年度の683億円から17億円増加の700億円を計画しています。

為替による影響は、想定為替レートを円安方向に見直した影響でプラス38億円。

売上増による利益増加はプラス52億円。
主にインバータの生産正常化による影響を織り込んでいます。

付加価値の増加はプラス120億円。
この内訳として、材料費の高騰影響がマイナス43億円と想定する一方、物流費の正常化によってプラス35億円、価格転嫁の進展によってプラス77億円、新製品の切替効果によってプラス11億円、それぞれ計画しています。

間接費の増加は、マイナス108億円。
活動の活発化や、賃上げ・人件費増による労務費増などを織り込んでいます。

最後の「その他」はマイナス85億円。
繰り返しになりますが、これは前年度に一時的に発生した退職年金制度の変更や遊休不動産の売却などに伴う“その他収益”が無くなった影響、固定資産の除却損などによるものです。

それでは、18ページにお進みください。

▶ “i³-Mechatronics”のビジネスモデル確立

→ 開発力の強化

- ・ 新型自律ロボット「MOTOMAN NEXTシリーズ」の確実な市場投入と新規自動化領域の開拓(23年11月リリース予定)
- ・ i³-Mechatronics実証結果を踏まえたYRM-Xシリーズの継続的進化(マシンコントローラとの連携強化)
- ・ 半導体市場のお客さま動向を見据えた製品開発の加速



ロボット新機械加工工場の外観

→ 生産力の強化

- ・ ロボットの新機械加工工場の確実な立ち上げ(24年5月稼働予定)
- ・ インバータ事業の国内事業所再編における大容量機種 of 組立工程自動化・基板内製化に向けた体制の構築(福岡県行橋市)

→ 販売力の強化

- ・ 実証事例の共有とYRM-Xシリーズの拡充によってi³-Mechatronicsのグローバル展開を加速
- ・ 故障情報・製造トレーサビリティデータを活用した製品・サービスの品質向上

▶ サステナブルな社会/事業に寄与する経営基盤の強化

- ・ 新中期経営計画「Realize 25」の利益目標に基づいた中長期インセンティブの設定

23年度下期における取り組みです。

開発力の強化では、11月に市場投入予定のMOTOMAN NEXTの確実な製品化を行います。適用範囲の拡大により、多様なモノづくりに対応できるフラッグシップモデルとして、不定型作業や変種変量生産工程における自動化に貢献していきます。

また、i³-Mechatronicsの実証結果を踏まえ、YRMコントローラの機能拡充を進めます。また、欧米向けには通信規格に合ったラインアップの拡充も進めます。YRMコントローラとマシンコントローラの連携がさらに強化されることで、生産ラインの改善により貢献できるようになると考えています。

成長市場である半導体市場においても、特定のお客さま向けにスペックインするモーション・ロボット製品の開発を進め、市場競争力を高めていきます。

生産力強化では、上期に建設を完了したロボットの機械加工工場にて、試運転やテスト生産を開始し、24年5月の本格稼働に向けた準備を進めます。また、インバータの生産においては、大容量機種の組立工程を自動化し、国内生産においても基板の内製化の検討を進めるなど、事業所再編に向けた取り組みを推進します。

販売力強化では、YRMコントローラを活用したi³-Mechatronicsソリューションの実証を進め、市場への導入展開をさらに加速します。

また、故障情報や製造に関するトレーサビリティデータの活用も進め、製品・サービスの品質向上を図ります。

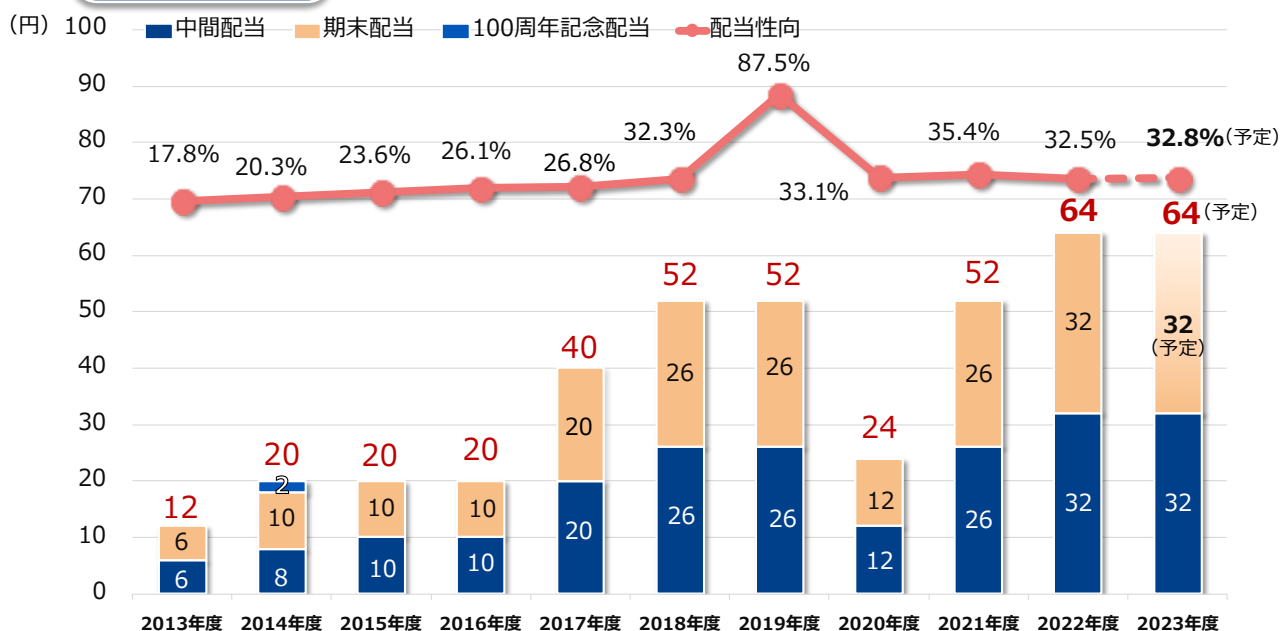
サステナブルな経営基盤の強化に向けては、新たにスタートした中期経営計画「Realize 25」における財務目標・非財務目標の達成度を、適正かつ公平に報酬として還元できるよう、中長期インセンティブを新たに設定いたします。

続きまして、19ページへお進みください。

株主還元（配当金推移）

- ・ 2022年度は前年度から12円増配の年間64円/株
- ・ 2023年度は前年度の配当額を維持し、年間64円/株を予定（配当性向32.8%）

配当金推移



株主還元についてご説明いたします。

今年度の中間配当は、2023年4月7日に公表のとおり、一株当たり32円といたしました。

また、期末配当につきましては、従来予想を据え置き一株当たり32円とさせていただきます。

これらの結果、年間配当は前年度と同額の64円を維持し、配当性向は32.8%となる見込みです。

21ページへお進みください。

3. 参考資料

設備投資・研究開発費, 為替レート, 感応度

設備投資・研究開発費の状況

(単位: 億円)

	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (計画)
設備投資額	241.8	276.1	380.0
減価償却費	174.8	196.7	210.0
研究開発投資	181.8	187.8	190.0

為替レート

※ 為替レートは、期中平均レートを記載

(単位: 円)

	2021年度 (実績)			2022年度 (実績)			2023年度 (想定)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期(実績)	下期	通期
対 米ドル	109.5	113.5	111.5	129.9	138.6	134.1	138.8	145.0	141.9
対 ユーロ	130.8	130.1	130.4	136.8	143.0	139.8	151.0	155.0	153.0
対 元	16.92	17.77	17.33	19.59	19.77	19.68	19.61	20.00	19.81
対 ウォン	0.097	0.096	0.096	0.102	0.104	0.103	0.106	0.110	0.108

為替感応度

(単位: 億円)

	1%変動による影響額目安 (2023年度_通期)	
	売上収益	営業利益
米ドル	13.5	2.9
ユーロ	9.5	1.9
元	13.2	3.3
ウォン	3.2	1.7

[注] 通期における為替相場の安定が前提

設備投資・研究開発費の計画は、2023年4月7日に公表した計画を据え置いています。

想定為替レートは、先ほどもご説明した通り、下期の前提を円安方向に修正しています。

26ページへお進みください。

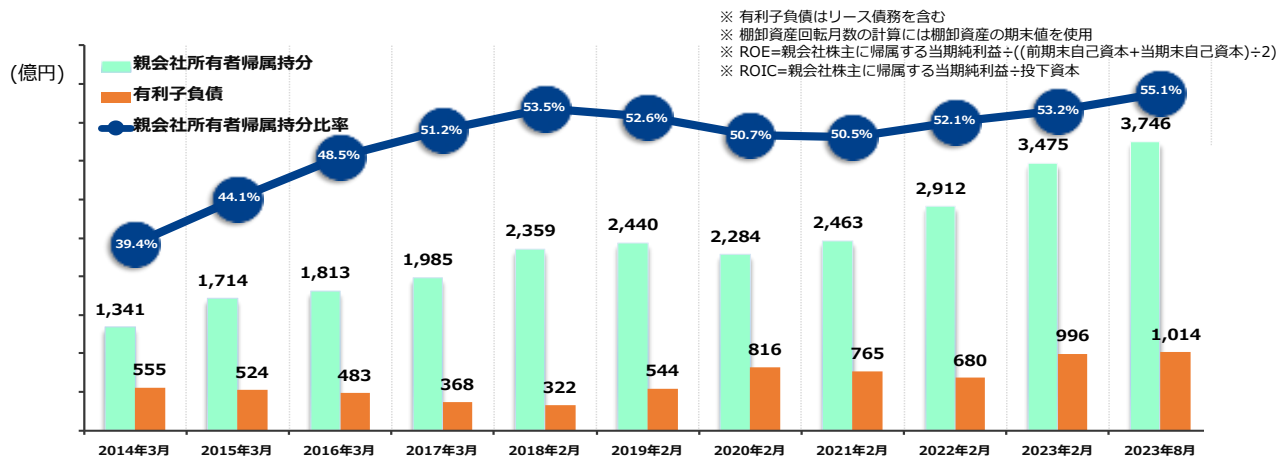
B/S 構造の推移

2023年2月28日時点

> 親会社所有者帰属持分比率	53.2%	> 棚卸資産	1,822億円
> 親会社所有者帰属持分	3,475億円	(回転月数)	(3.9ヶ月)
> 有利子負債	996億円	> ROE	16.2%
> D/Eレシオ	0.29	> ROIC	14.6%
(ネットD/Eレシオ)	0.16		

2023年8月31日時点

> 親会社所有者帰属持分比率	55.1%	> 棚卸資産	1,990億円
> 親会社所有者帰属持分	3,746億円	(回転月数)	(4.1ヶ月)
> 有利子負債	1,014億円		
> D/Eレシオ	0.27		
(ネットD/Eレシオ)	0.17		



(億円)	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年2月	2019年2月	2020年2月	2021年2月	2022年2月	2023年2月	2023年8月
営業CF	240	290	320	338	461	343	215	396	492	▲ 22	178
投資CF	▲ 169	▲ 279	▲ 224	▲ 189	▲ 189	▲ 271	▲ 206	▲ 96	▲ 242	▲ 197	▲ 119
フリーCF	70	11	95	148	272	72	8	300	251	▲ 219	59

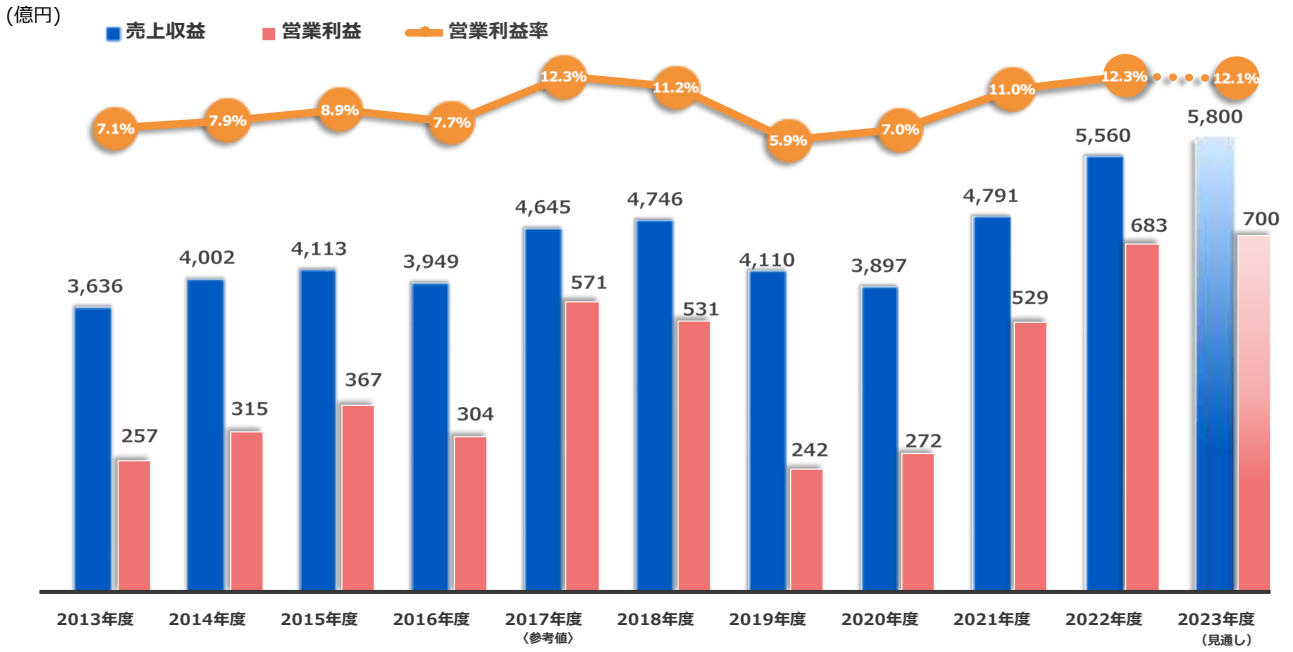
[注] 2018年2月までのデータは日本基準にて記載

YASKAWA

© 2023 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

売上収益・営業利益推移（2013年度～2023年度見通し）



Realize 100

Dash 25

Challenge 25 Plus

Realize 25

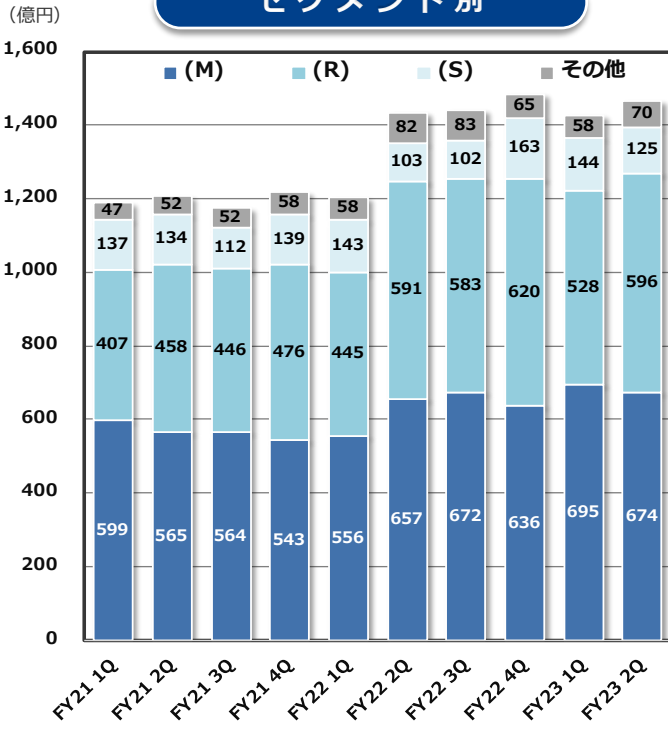
中期経営計画

[注1] 2017年度までのデータは日本基準にて記載

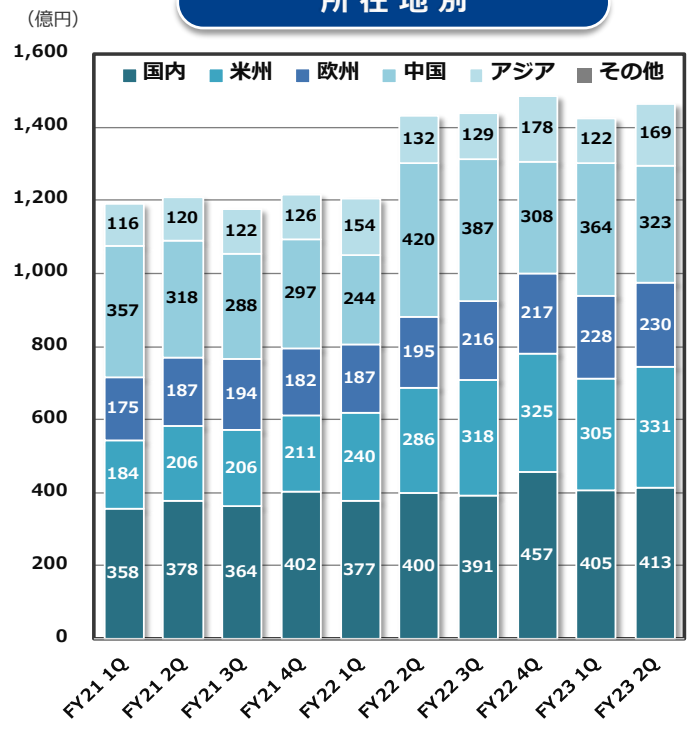
[注2] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

四半期売上収益推移

セグメント別



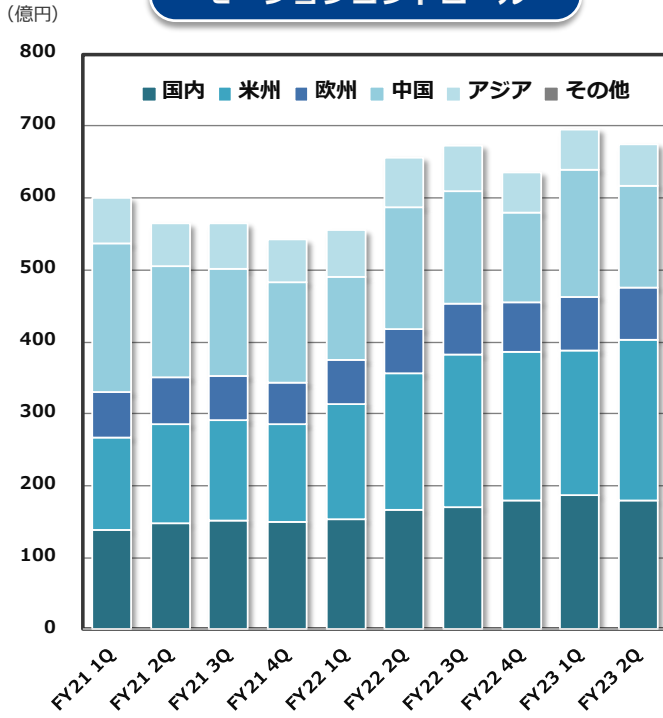
所在地別



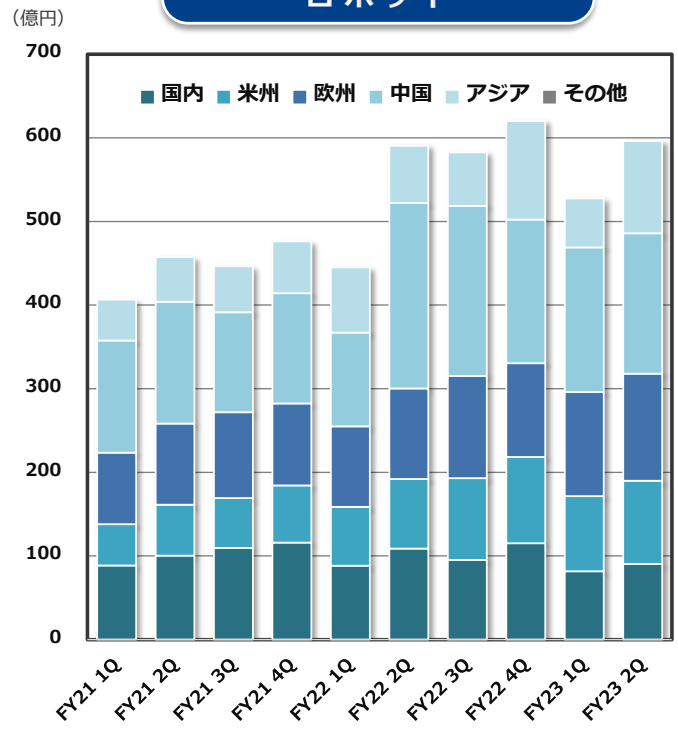
[注] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

四半期売上収益推移

モーションコントロール

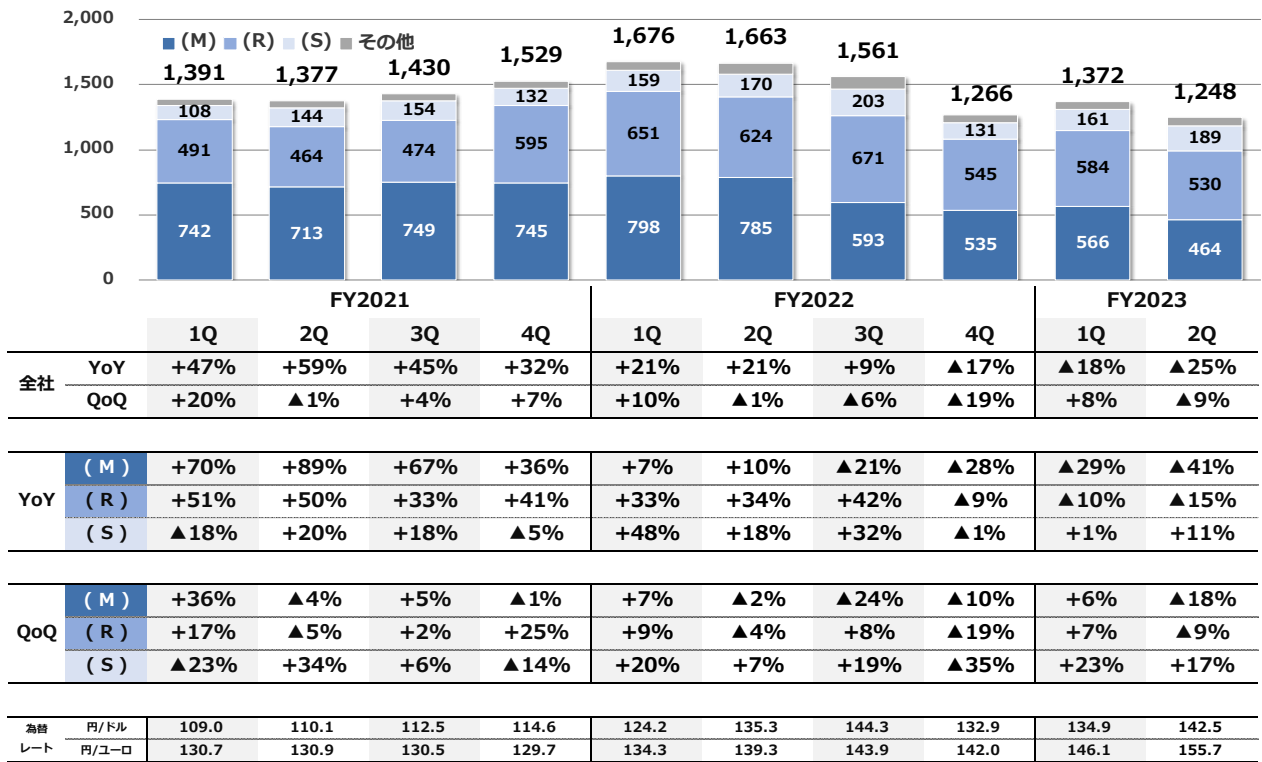


ロボット



四半期受注推移 (セグメント別)

※為替は期中平均レートを使用



[注] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

参考情報として開示しております四半期連結受注推移について、
23年度 第2四半期のセグメントごとの地域別増減率を次の通りお伝えします。

ACサーボは、YoYで▲47% です。

内訳は、国内▲64%、米州▲51%、欧州▲45%、中国▲1%、
その他アジア▲67% です。

QoQは、全体で▲19% です。

内訳は、国内▲25%、米州+14%、欧州▲15%、中国▲32%、
その他アジア+27% です。

インバータは、YoYで▲33% です。

内訳は、国内▲32%、米州▲35%、欧州▲23%、中国▲44%、
その他アジア▲8% です。

QoQは、全体で▲17%です。

内訳は、国内▲21%、米州▲17%、欧州▲10%、中国▲18%、
その他アジア▲11% です。

ロボットは、YoYで▲15% です。

内訳は、国内▲28%、米州▲4%、欧州+9%、中国▲26%、
その他アジア▲15% です。

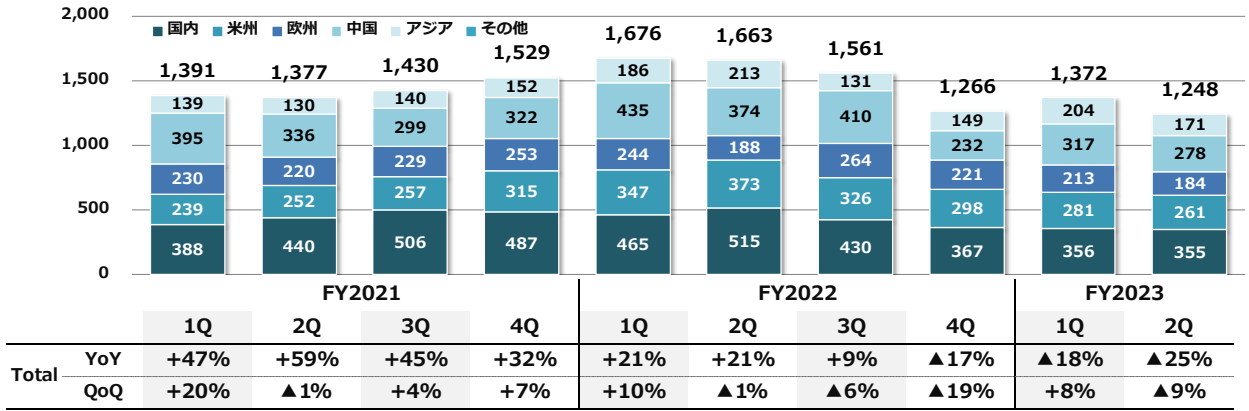
QoQは、全体で▲9%です。

内訳は、国内+2%、米州▲6%、欧州+5%、中国+5%、
その他アジア▲40% です。

以上をもちまして、2023年度 第2四半期 業績概要の説明を終わります。
ご清聴ありがとうございました。

四半期受注推移 (所在地別)

※為替は期中平均レートを使用



YoY	Region	FY2021				FY2022				FY2023	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
	国内	+22%	+44%	+57%	+30%	+20%	+17%	▲15%	▲25%	▲23%	▲31%
	米州	+88%	+87%	+78%	+74%	+45%	+48%	+27%	▲6%	▲19%	▲30%
	欧州	+64%	+96%	+40%	+43%	+6%	▲15%	+15%	▲13%	▲13%	▲2%
	中国	+54%	+48%	+20%	+21%	+10%	+12%	+37%	▲28%	▲27%	▲26%
	アジア	+32%	+46%	+29%	▲1%	+34%	+64%	▲6%	▲2%	+10%	▲20%

QoQ	Region	FY2021				FY2022				FY2023	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
	国内	+3%	+13%	+15%	▲4%	▲5%	+11%	▲16%	▲15%	▲3%	▲0%
	米州	+32%	+5%	+2%	+23%	+10%	+8%	▲13%	▲9%	▲6%	▲7%
	欧州	+30%	▲4%	+4%	+10%	▲4%	▲23%	+41%	▲16%	▲4%	▲13%
	中国	+49%	▲15%	▲11%	+8%	+35%	▲14%	+10%	▲43%	+37%	▲12%
	アジア	▲9%	▲6%	+8%	+9%	+22%	+15%	▲39%	+14%	+37%	▲16%

YASKAWA

© 2023 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>